

議長（竹島貴行君） 1番 森 弘秋君。

1番（森 弘秋君） 私からは、北陸新幹線が平成26年度末に開業するが、開業を見据え、どのような政策・施策が考えられるのか、あるいは考えておられるか、その展望について質問いたします。

先日の新聞で、県警は、防犯カメラは犯罪摘発とその抑止対策の両面の効果があるというふうに報道しておりました。カメラの設置により、カメラ映像が決め手となり、商店で起きた万引きが摘発に至ったケースが多いと。また、市や町では、定住促進や交流人口拡大等のため、賃貸・管理されていない空き家の情報等のホームページが開設されていると報道しておりました。県では10月から、県内に増加傾向にある空き家の実態調査に乗り出すそうです。

そこで、舟橋村にあっては、防犯カメラの設置、空き家の情報等のホームページの開設は、いち早く先見性をもって着手されていることは、非常に誇りに思うところであります。

ご存じのように、先月、富山県で第36回全国高等学校総合文化祭が開催され、8月8日・9日には舟橋村で弁論大会が実施されました。村長は挨拶の中で、「全国一面積の小さな舟橋村に、ようこそいらっしゃいました。弁論大会が開催されたことは、大変うれしいことです」と感嘆しておられた。全国一小さな舟橋村をアピールされたのは、非常によかったと思います。

そこで、私は、常日ごろから思っていたのですが、北陸新幹線開業に合わせ、「日本一小さな舟橋村」を「日本一大きな舟橋村」として育て、県内外に発信したらいかがかと。

我が村は富山市に隣接しており、富山市のベッドタウンとも言われております。富山市から約10キロメートル、富山地方鉄道で15分、自動車でも20分程度の交通利便のよい村であります。

発信する手段としては、観光面、交通面、産業面、教育面などいろんな分野がありますが、どの分野にしても簡単にはいかないと思います。が、魅力ある村に育てなければならぬと考えております。「ローマは一日にしてならず」「継続は力なり」と言いますが、3年、5年、いや10年かかるかもしれません。挫折も考えられるかもしれません。

しかし、成功しておる市や町があります。例えば大門町、今は射水市であります。旧大門町のたこ揚げであります。昭和54年に第1回が開催されましたが、その前まで

枇杷首自治会と大門町児童クラブが連合して実施していた行事を町の行事として開催されたそうです。ことしが第34回目の大会で、毎年5月の第三日曜日に開催、今では近隣市町村だけでなく国内にも響いているそうです。

第5回記念大会は庄川河川敷で開催され、全国大会とあって中沖知事も出席されたとあります。その後、10回大会、15回大会、5年ごとに記念大会が開催され、第19回大会からは2日間にわたって開催。第20回記念大会は3日間開催され、回を追うごとに盛大になり、現在に至っておるそうです。ことしの第34回大会予算は約1、400万円強だそうです。

私の記憶にあるのは、こんなことを言っただけは本当に失礼だと思いますけれども、「何だ、大門町は、たこ揚げをしておるな」と簡単に思っていたんですが、とんでもありません。今では全国的なイベントです。「継続は力なり」です。感嘆しております。

近隣の滑川市を見ますと、「ふるさと龍宮まつり」が開催されております。この龍宮まつりは、昭和54年8月、第1回の「ふるさと古代神まつり」が開催され、16年後の平成7年5月には、第1回の「なめりかわ龍宮まつり」が開催されました。それぞれに歴史があります。しかし、1年に2回のイベントをするより、規模を大きくして集客力を増し県内外に広げようと、平成14年7月には2つのまつりが合体して第1回の「ふるさと龍宮まつり」が開催され、県内各地から参加者が増え、集まり、夜まで大勢の人で賑わったとあります。

最初から大きなことを望まなくていいのです。どこでも小さなことから始まっているのです。幸いに我が村には、「ふなはしまつり」があります。そこからヒントを得ることもできるのではないのかと思います。

それでは、近隣の市や町の新幹線開業を見据えた取り組み等、調べたものを幾つか紹介いたします。

立山町では、企業誘致活動の推進、地鉄五百石駅と一体化した施設「みらいび」内に観光情報コーナーの設置及び周辺施設の整備、越中瀬戸焼を中心とした歴史資源、自然資源を生かしたまちづくりの推進など。上市町では、ショウガシロップ「上市でしょうが!」、大岩山日石寺を中心とした周辺地域の歴史資源、自然資源を生かしたまちづくりの推進など。富山市にあっては、全日本チンドンコンクールの開催、企業誘致活動の推進、富山駅周辺地区の南北一体的なまちづくり、地元ガラス作家の制作したガラス食器の飲食店への配布など。それぞれの市や町では、観光面、交通面、産業面など、いか

にしてこの機会に魅力を発信するかを考えております。

さて、北陸新幹線の金沢までの開業まで、あと2年6カ月となりました。安心・安全な村づくりの構築はもちろんのことでありますが、「日本一小さな村」を日本中に発信してはどうだろうか、先ほども申しました。

折しも9月4日には北陸新幹線の新型車両のデザインが発表され、県内のトンネルや高架橋の土木工作物の工事進捗率、8月末で99.1%となっており、富山駅も11月17日には安全祈願祭が行われる予定となっております。また、県では、来年、平成25年2月、開業2年前イベントを富山市、県西部、新川地区の3会場で開催、富山の未来を語るトークイベントや新幹線と地域活性化をテーマとした講演会など、この9月補正予算案に2,300万円を計上し、開業ムードを盛り上げるそうです。数日前の新聞にも載っております。

先ほども申しましたが、舟橋村には「ふなはしまつり」があり、規模を拡大、すなわち部門の拡大、会期の延長、全国から集まって参加できるイベント、例えば舟橋村の特産品であります、カボチャ、枝豆等がありますが、その枝豆を活用し、「わんこ枝豆食い大会」もよしであります。先ほど明和議員さんからも質問がありましたが、企業誘致がありました。村長はいろんな理由等々で慎重に対応するというふうに言っておられましたけれども、私のほうからは、視点を変えまして、例えばホテルと提携し、ホテルの宿泊等、経営の補完として、舟橋村で宿泊とリゾートを兼ねたホテルの建設。朝、外に目をやると、「あしたの森」公園のせせらぎの音、心を癒し、何とロマンなことかというふうに思います。そして、舟橋村の経済効果も期待できるのではないかというふうに思います。

唐突ですが、高志の国文学館に、藤子・F・不二雄の「ドラえもん」の常設展示コーナーがあります。ひょっとして、ドラえもんのポケットからいろんなものが飛び出してくるのではなからうかというふうに思います。このようなグローバルな時代であり、村長には、今まで以上に外に目を向けてもらいたいと思います。

ところで、我が村の第4次総合計画を見ますと、うがった見方で、必ずしも当を得ていないかもしれませんが、重点プロジェクトにも記載してありますように、「自然豊かな田園環境」と銘打っており、また「芸術・文化・交流活動」の中で、「国内の他地域とも文化やスポーツなどを通じた交流を図り、地域間交流を推進していく必要があります」と提言しております。今こそ羽ばたくときではなからうかと考えます。

新幹線の開業を見据えた対応策にしても、冒頭にも申しましたが、防犯カメラの設置、空き家対策、そして本議会で舟橋駅前に歓迎看板を取りつけることが提案されました。まことに結構なことと思います。そこで、新幹線の開業を見据えた事業も、先見性を持って考えておられることと思います。その展望をお聞きしたいと思います。

話は違いますが、滋賀県の議員研修に行ったとき、そこで、「富山県舟橋村を知っていますか。日本一小さい舟橋村ですよ」と聞いたら、いわく、「舟橋村？ どこにあるのですか」「いやいや、富山市から電車で15分、車で20分ぐらいのところですよ」と説明しても、「そんなに富山市と近いのですか。村だから、どんな山奥かと思っておりました」という答弁でした。一部の人であればよいのですが。

新幹線開業まで、残り2年半。開業後もムードは3年ないし4年は続くと思われれます。この間にぜひとも全国に発信していただきたいと考えます。

観光面、交通面、産業面、教育面などいろんな分野があることは述べました。再度、村長の、「日本一小さな村」ではありますが、「小さな村、ここにあり」として発信する長期ビジョン、そして展望の考えをご答弁願ひ、質問を終わります。

議長（竹島貴行君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 1番森議員さんのご質問にお答えいたします。

北陸新幹線につきましては、皆様ご存じのとおり、平成26年度末の開業に向けまして、着々と工事が進んでいるところであります。このような状況もとに、それぞれの市町におきましては、地域の魅力をPRするために、観光のプランニング、あるいはまた物産展などさまざまな取り組みが行われております。こういった機会を取り上げて、森議員さんは、「日本一小さな村」の魅力をPRしてはどうかというご質問の趣旨だと思いますし、またいろんな県下の取り組みの状況もお調べになって質問されたわけでありまして、私もその旨を十分考えているわけでありまして、

いずれにいたしましても、舟橋村は3.47平方キロという日本一小さな面積でありまして、農用地の大半が優良農地になっているということでございまして、企業の誘致といたしましても、大変私は至難なことだと、こういうふうに思っているわけでありまして、

そういった中で、もし取り組むことが可能とすれば、私はIT関係のベンチャー企業等が来てくれたらというふうに思っているわけでありまして、これもいろいろと議員の皆さんと相談しながら進めていかなくちならないわけでありまして、そういった企業

誘致にも限界があるということも、ひとつ考えていただきたいと、こういうふうに思っております。

ご案内のとおり、私のところの村には観光資源もございませんし、こういったことを言っただけでは失礼でございますけれども、宿泊施設もないわけでありまして。そういった中で、私は5年前から、農産物の一つの特産化を目指すと、こういうことで、枝豆とか、あるいはまたカボチャを舟橋村の特産品として、ひとつ研究開発しようということで進めてまいりました。

この間におきまして、蔬菜園芸協会も発足いたしました。そしてまた、カボチャにおきまして、そういった定着化、皆さんが栽培していただけるようになりました。そして、ことしは天候にも恵まれたこともありまして、生産量でいいますと9トン弱の生産がなされたというふうに報告を受けておるわけでありまして、私は非常に皆さんの努力に対して感謝を申し上げたいと思っておるわけでありまして。

そしてまた、カボチャの件でございますけれども、これも、現在、県立大学と連携いたしまして、パウダー化ということで、多くの商品に加工できるようなことを研究していただいているところでありまして、またそのものがどのようにニーズがあるのかということ、業者間の、そういったことも含めまして、そういう調査も進めることにしておりますので、ひとつ皆さん方も温かく見守っていただきと、こういうふうに思っているわけでありまして。

そしてまた、昨年は商工会婦人部の力によりまして、カボチャと枝豆を原材料にしたクッキーができて、それも商品化に成功いたしました。それは「カーモくんクッキー」といって販売に至っておるわけでありまして、こういった物も皆さん方にもご理解いただき、県外、あるいはまたそういった友人等のつき合いがございましたら、贈答品等に使用していただければ、私は幸いかと思っておるわけでありまして。

それから、図書館と舟橋会館を何とか活用といいますか、施設を利用して、そういった文化面での施策はどうかと、こういうことでございます。

先ほど森議員がご指摘だったように、文化の交流を深めるというチャンスにもなるんじゃないかと、こう思っておるわけでありまして、中央のほうから著名な講師を招いて文化講演会を開催するというので、都市部の方々との交流が図れるんじゃないかと、こういうふうに思っておるわけでありまして。

また、図書館におきまして、平成20年、今から4年前になるわけでありまして、

天然のカモシカが図書館に入ってきたということで、それを題材にいたしました『カモシカとしゃかん』という一つの絵本を発刊したわけであります。これも、3,000部も増版いたしまして発刊しておるわけでございますので、そういった状況を踏まえまして、今度は図書館の、またそういった第2の絵本を検討したらどうかと、こういうふうにも思っておるわけであります。

そしてまた、今現在、皆さんご存じのとおり、図書館を視察するということで視察者が数多く来ておいでになるわけであります。それをちょっとご報告申し上げますと、平成22年度には15件・258名の方、そしてまた平成23年度には5件で74人、そして今年に至りましては、今までのところ、5件・38人という方々が県外から視察に来ておいでになります。

その視察の目的は、人口1人当たりの貸し出し冊数日本一となっている、そうした図書館がどのような取り組みをされているのか、そしてまた県内でも非常に誇れる、駅南にありますパーク・アンド・ライド、これがどのような運用の仕方になっておるか、と、こういうふうにも注目されて、視察者がおいでになっておるわけでありますので、こういった機会を取り上げて私のところの村のPRということも十分すべきことでないかと、こういうふうにも思っております。

そしてまた、よい機会でもあると、こういうふうにも思っておりますので、そういった資料等、PRのパフレット等を作成いたしまして、そういった、備えておくと。これも私は大切だと思っています。そういう意味で、皆さんご存じのとおり、舟橋村のポスターを作成させていただきました。それも一つ皆さん方に知っていただくという機会になると私は思っております。

いずれにいたしましても、舟橋村のよさは十分皆さん方もご存じだと思いますけれども、非常に自然の環境に恵まれた村でございますので、そういった自然環境の豊かさを十分生かしたPR活動が大切だと私は思っておりますので、そういう点に配慮しながら努めてまいりたいと、こう思っております。

そしてまた、舟橋村の身の丈に合った予算規模等を考慮しながら事業を展開していく。それが、私は舟橋村の事業の進め方のかなめであると、こういうふうにも思っております。

そうということで、今後とも、日本一小さな村・舟橋村ということをも前提にいたしまして、全国に情報を発信してまいりたいと、このように考えておりますので、議員の皆さま

ん方から十分ご提言等をいただきながら努めて、向かっていきたいと、こういうふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げまして、私からの答弁とさせていただきます。

どうもありがとうございました。